

連載 七番勝負第七局

COC+の取り組みの継続の必要性

これまで6回にわたって、東京圏への人口の一極集中の現状、副専攻「岡山創生学」の開設による地域志向人材の育成と輩出、地域創生コモンズの開設やコミュニティキャンパスおかやま等による地域課題の解決を通じた魅力ある地域づくり、長期インターンシップ等の地域産業支援による持続的な雇用創出の取り組み等、若者の地元定着を目的としたCOC+の紹介をしました。

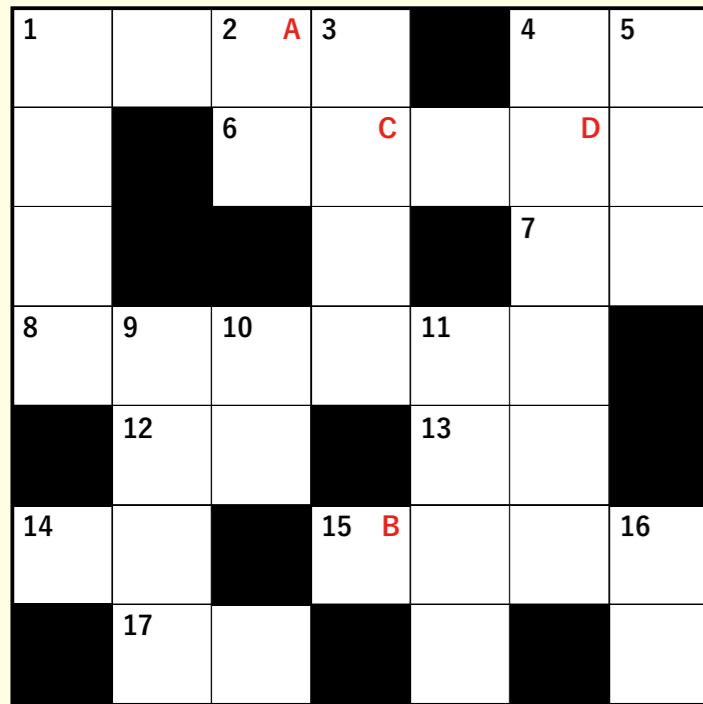
COC+は今年度をもって終了しますが、地方と東京の経済格差拡大による東京への一極集中や、若者の地方からの流出はますます進行していることから、COC+に参画いただいた事業協働機関と引き続き連携を図りながら、若者の地元定着への取組を継続してまいります。

	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)
① 転入	5,079人	5,053人	4,636人	4,757人	4,687人
② 転出	6,516人	6,518人	6,784人	7,165人	7,185人
転出超過数 ①-②	1,437人	1,465人	2,148人	2,408人	2,498人

出展：住民基本台帳人口移動報告 2015年～2019年(総務省)

COC+ クロスワードパズル

※カタカナでお答えください
※小文字の拗音(ャ、ユ、ヨ)や促音(ッ)は大文字の直音として扱います



ヨコのカギ

- 対局者が盤上に駒を並べて交互に指し手を進め、敵玉を詰ます室内ゲームを「〇〇〇〇」という。
- 弦を押さえる場所で音程を決める日本の伝統楽器を「〇〇」という。
- 旅行中の見聞や感想を書き記した文章を「〇〇〇〇〇」という。
- 単子葉植物の総称で約2万種が熱帯を中心に広く分布している「〇〇」。
- 国内で「〇〇〇〇〇〇」を手がけている50社以上あるが、その半数以上は岡山県の企業である。
- 製塩業に携わる人々が生み出した調理法の「浜焼き〇〇」、伝八笠という笠に包むのが伝統作法である。
- 岡山弁で「〇〇ん」とは、どのようにしても、もう駄目だという意味である。
- 岡山県の県花は「〇〇」の花である。
- 岡山県の児島が発祥の地。「児島〇〇〇〇ストリート」が有名。
- 紅藻・緑藻・シアノバクテリア(藍藻)などを含む、食用とする藻類の総称を「〇〇」という。

タテのカギ

- めでたいこととして喜び祝うことを「〇〇〇〇」という。
- 「〇〇科」の植物の総称。多くの栽培種があり、キュウリ・スイカ・カボチャ・ヒョウタン・カラスウリなどがある。
- 脊椎動物亜門から四肢動物を除外した動物群のことを「〇〇〇〇」という。
- 日本三名園の一つ、「岡山〇〇〇〇〇〇」は、世界に誇る文化財である。
- 将棋で、歩が敵陣の三段目以内に入って成ったものを「〇〇〇」という。
- 木および草の実で、多汁でふつう甘味があり、食用になるものを「〇〇〇」という。
- メイドインジャパンを日本語では、「日本〇〇」という。
- 「パッチング〇〇〇〇」は素振り確認します。
- 岡山県には池田動物園があるが、動物園のことを英語で「〇〇〇」という。

回答	A	B	C	D
----	---	---	---	---

プレゼントに応募しよう!

クロスワードパズルを解いて、プレゼントに応募しよう。連携自治体の岡山県の問題を出題しています。必要事項を記入の上、右記メールアドレスまでご応募ください。正解者の中から抽選で10名様に「岡山県立大学グッズセット」をプレゼントします。(今回は岡山県からオリジナルグッズのプレゼントもあります。)



10名様

必要事項

- 件名に「クロスワードプレゼント」と記載。
- 本文に「答え」「氏名」「郵便番号」「住所」「年齢」「電話番号」を記載。

個人情報の取扱について

- お寄せいただいた個人情報は、当クロスワードパズル以外の目的には使用いたしません。

✉ メールアドレス: cocplus@oka-pu.ac.jp

締め切り: 2020年4月30日 日

OKAYAMA COC+

NEWSLETTER

岡山県立大学 COC+ ニュースレター

VOL.7
2020.3.31

PICKUP

おかやまCOC+ シンポジウム2020を開催

地域創生推進士の第二期生の候補者が企画段階から関わり、司会やパネルディスカッションのコーディネーター等を担いました。ポスター発表も実施し、学生が岡山創生学で学んだ取組を発表しました。



地域創生推進士が創る

おかやまCOC+ シンポジウム2020

大学と地域が切り拓く未来 ~COC+展開の必要性~

What's

地域創生推進士?

地域創生推進士とは、「地域で活躍できる人材」の育成を目的とした副専攻「岡山創生学」で定められた科目を履修して、単位を取得し、修了した学生に対して、岡山県立大学が認定し、授与する称号です。「おかやま」というフィールドに興味を持ち、社会に対する視野を広げ、理解を深めるための社会連携教育プログラムを学びます。そして、地域が抱える課題を認識し、フィールドワークやインターンシップを通して、課題解決プロセスを考え実践します。



期待される「地域創生推進士」

- ☑ 地域貢献に関する理論と実践を身に付けています。
- ☑ 社会に出て活躍できる社会人基礎力を備えています。
- ☑ エネルギー情熱と活力で地域を活性化することができます。

“おかやま”への深い理解と熱意を持ち、“おかやま”の創生に貢献したいという強い意志を持った、次世代を担う人材です。

- ☑ 協働を通して、地域をプロデュースすることができます。
- ☑ 地域資源のブランディングを積極的に手掛けることができます。



「岡山創生学」…基礎科目では社会連携に繋がる基礎知識や岡山県の地域施策等を学び、実践科目では地域課題の発見と解決への過程を、アクション・ラーニングを通して学びます。

「副専攻」…主専攻の専門教育以外の分野や考え方を学ぶことで、専門教育を補完するだけでなく、大学での学びの幅を広げ、修学意識が高められる制度です。

パネルディスカッション



テーマ「おかやまCOC+のこれまでとこれから」

- パネリスト**
- 岡山県立大学 保健福祉学部 3年 仁子将大 (地域創生推進士候補)
 - 岡山県立大学 保健福祉学部 3年 本原琢己
 - 岡山県立大学 情報工学部 4年 太田圭祐 (地域創生推進士)
 - 岡山県立大学 情報工学部 3年 井上勇一
- 就実大学 経営学部 4年** 根石憲司
- 岡山県総務学事課 課長** 野村周弘
- 総社市総合政策部 部長** 高橋邦彰
- 岡山県商工会議所連合会 専務理事**
- コメンテーター**
- 文部科学省地域学習推進課 課長補佐 香西健次
 - 一般社団法人公立大学協会 常務理事 中田晃
- コーディネーター**
- 岡山県立大学 保健福祉学部 3年 高橋似奈 (地域創生推進士候補)
 - 岡山県立大学 情報工学部 3年 石田朋也 (地域創生推進士候補)

「地域創生推進士」で得た学びを生かして

情報工学部 人間情報工学科4年 太田圭祐 さん

地域創生推進士を取得し4月から岡山県内で公務員として就職予定です。いくつかの自治体や企業で面接を受けましたが、毎回、履歴書に記載したこの地域創生推進士についてはどこへいっても必ず聞かれ、他の受験者にはない資格だったので、興味を持っていただくことができ、面接を盛り上げることができました。春からは、「岡山創生学」で学んだ地域の課題やそれを乗り越えるために必要なネットワーク力を生かして、岡山の未来に役立てる仕事をしたいと思っています。

「専門分野を生かした地域創生推進士を目指して」

保健福祉学部 保健福祉学科3年 高橋似奈 さん

「岡山創生学」では地域課題に対する取り組みを学びました。急激に進む高齢化のために、医療介護機関が連携し、地域での繋がりを強め、地域全体で高齢者を支えていく必要があると感じています。私は社会福祉士を目指しているので、こうした地域の課題にきちんと向き合えるよう努力していきたいです。



Interview

地域創生推進士の候補者が企画段階から関わり、当日の総合司会やパネルディスカッションのパネリスト、コーディネーターも務めました。開催にあたり、おかやまCOC+推進協議会の沖陽子委員長及び伊原木隆太県知事から開会挨拶があり、続いて、沖委員長がCOC+5年間の総括説明を行いました。また、自治体、企業団体の代表者らと学生らのパネリストによって、「おかやまCOC+のこれまでとこれから」というテーマでパネルディスカッションが行われ、その後、岡山県立大学、岡山理科大学、就実大学の学生らによるポスター発表も行われました。



開会挨拶をする 伊原木県知事



5年間の総括説明する 沖委員長

ポスター発表

「若者が集まる場の創造ラボ」

岡山理科大学 経営学部 3年
和泉颯汰 工藤遥
濱田峻太 本原琢己

「吹屋ふるさと村 観光振興の課題」

就実大学 経営学部 4年
井上勇一

「地域協働演習 片上地区支えあい実行委員会 ~移住政策を進めるために~」

岡山県立大学 保健福祉学部 2年
小池遥 麗菜摘 井澤歩
田代愛乃 高原明日香
羽原采音 草地笑奈
佐藤李音 中山貴愛羅
情報工学部 2年
矢野智美

「私たちがめざす 地域創生推進士」

岡山県立大学 保健福祉学部 3年
伊加汐音 服部未歩
デザイン学部 3年
島田遥 西岡奈津

「インターンシップを経て ~自治体と企業の連携~」

岡山県立大学 情報工学部 3年
石田朋也 神原充
田口晃佑 遠藤祐貴
保健福祉学部 3年
陶山朋佳

「岡山の企業を知る エンジニアリング演習」

岡山県立大学 情報工学部 3年
安藤未来 中川千怜
村上源 山田美裕宇

「チームガバナビリティ演習で 学んだ多職種連携」

岡山県立大学 保健福祉学部 4年
柳沢千尋
保健福祉学部 3年
森はるか 池上桃加
村上幸美

「自立を考慮した地域保健福祉演習」

岡山県立大学 保健福祉学部 3年
伊勢菜摘 神田えみり
桐山舞 佐野悠花

「地域における管理栄養士の役割」

岡山県立大学 保健福祉学部 3年
木山夏乃 早川智紗
掠代萌絵

「専門分野を活かした 地域創生推進士を目指して」

岡山県立大学 保健福祉学部 3年
高橋似奈 仁子将大
藤原瑠真美 藤森裕大



閉会の挨拶を述べる 末岡副委員長

「おかやまCOC+」への御協力ありがとうございました。

岡山県立大学 地域共同研究機構 COC+推進室 室長 原英二

「おかやまCOC+」は、2015年度にスタートし、予定の5年を経過しました。これまで多くの方々に御理解の上、御協力をいただき、誠にありがとうございました。私自身、2年前にバトンを引き継ぎ、取り組んでまいりましたが、「大学全体の取組になっていたかどうか」「事業協働機関の役割分担は適当であったか」など、反省するところばかりです。「おかやまCOC+」の成果としては、「やっと基盤づくりができた」といったところではないでしょうか。これからが「新たな始まり」であり、大学が持つ本来の役割である社会貢献に他大学とともに取り組みながら、次代を担う地域人材を輩出していく必要があると考えております。今後も変わらぬ御支援を皆様から賜りますよう、よろしくお願いたします。